

会 議 録 (要旨)

会議の名称	第4回 小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会
開催日時	平成27年9月14日（月）午後6時30分から午後8時30分まで
開催場所	小平市福社会館 4階 小ホール
議長	松本委員長
出席者	松本委員長、羽貝副委員長、市川(健)委員、市川(徹)委員 出竿委員、菅野委員、窪田委員、鈴木委員、西村委員、樋口委員
欠席者	なし
事務局職員	津嶋都市開発部長、奈良都市計画課長、島田都市計画課長補佐、 鹿島都市計画課主任、大嶺都市計画課主任
議題(案件)	① 報告事項 ・「まちづくりカフェ」について ・まちづくりフォーラムについて ・平成27年度市民アンケート調査の実施について ② 検討事項 「小平市都市計画マスタープラン全体構想 前半」 について ③ 今後の日程について
資料	・資料1 第4回小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会 議題内容 ・資料2 まちづくりカフェニュースVol.4 ・資料3 小平市都市計画マスタープラン 市民アンケート調査 (平成27年度) ・資料4 小平市都市計画マスタープラン全体構想 前半(検討用資料)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
委員長	<p>1 開会</p> <p>ただ今より、第4回小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会を始めます。よろしくお願いいたします。</p> <p>8月の終わりにまちづくりフォーラムを開催し、雨が降っていたので誰も来ないのではないかと思ったのですが、思いのほか多くの方に来ていただき、話をさせていただきました。何をつくっていくかということではなく、これからはあるものを活用しながら市民の生活が良くなるような都市をつくろうという話をし、いろいろな質問もいただきました。</p> <p>会議の公開については、傍聴の方もおられますが、入り口でお渡しした傍聴券に注意事項を書いておりますので、ご覧いただいてご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、検討委員会を始めます。次第によりますと、本日はまず報告事項が3点ありますので、事務局から説明をしていただきます。その前に、資料確認をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料確認)</p>
委員長	<p>2 報告事項</p> <p>(1) 「まちづくりカフェ」について</p> <p>(2) まちづくりフォーラムについて</p> <p>(3) 平成27年度市民アンケート調査の実施について</p> <p>それでは、次第の報告事項について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>1 「まちづくりカフェ」についてです。</p> <p>平成27年度第1回まちづくりカフェ、通算4回目を、平成27年7月11日(土)の午前9時30分から正午まで、仲町公民館で行いました。</p> <p>参加者は、2グループで12名でした。主な実施内容は、「小平市での暮らしについて」、「7つの拠点ごとのまちのあり方について」話し合いました。</p> <p>主な意見としましては、「小平市での暮らしについて」では、・小平市</p>

	<p>は安全安心なまちだが、将来もずっと維持してほしい。・身近で日常の買い物ができるようになればいいが、離れていても散歩しながら買い物できる魅力もほしい。・様々な人にとって魅力的な場所が市内にたくさんあれば、市外からも人が来るようになると思う。・子育て層には、車が利用しやすいまちづくりが重要であるが、高齢になると車の運転ができなくなり移動が不安である。若い世代向けと高齢者向けのまちづくりにギャップがある。などの意見がありました。</p> <p>「7つの拠点ごとのまちのあり方について」では、・小平駅周辺は、集客力のあるルネこだいらを活かせば、リピーターができるポテンシャルがある。通過点ではなく、若い人に来てもらえるまちにするとよい。・小川駅周辺は、個人商店が廃業してマンションや住宅に変わってしまった。・新小平駅は、市内で唯一のJR駅で便利であるが、アクセス性はよくない。駅前のロータリーも狭く使いにくい。・青梅街道駅は、市役所等があるので、まちの中心という印象がある。地域交流センターのような拠点となる施設もあった方がよい。・一橋学園駅周辺は、まさに学園都市のようににぎやかだが、だんだんお店が減ってきている。利用したいお店等はまだまだあるが、道路が狭く行きにくいので結局利用しない。などの意見がありました。</p> <p>まちづくりカフェの今後の予定としましては、9月26日（土）に、平成27年度第2回まちづくりカフェを開催します。また、平成27年度まちづくりカフェの後半は、11月から平成28年1月頃までの間に、3回実施する予定です。</p> <p>続いて、まちづくりフォーラムについてです。8月29日（土）の午前10時から、小平市中央公民館ホールで、「まちづくりフォーラム～小平市都市計画マスタープラン改定にあたって～」を開催しました。内容としましては、最初に事務局から小平市都市計画マスタープラン改定の取組状況報告をしたあと、委員長にご講演をしていただきました。参加人数は41名でした。</p> <p>次に、平成27年度市民アンケート調査の実施についてです。8月22日（土）発送しまして、締切日を9月24日（木）としました。調査対象は、市内に住所を有する18歳以上の市民で、10歳ごとの年齢別及び町丁ごとの人口割合に応じて無作為抽出2,000件に発送しました。主な内容としましては、・小平市内の暮らしのイメージについて、・市民の生活行動について、・駅の役割について、・小平市内のみどりの保全についてとしまして、今年度も同時に「まちづくりカフェ」参加者及び市民モニター募集を行っています。なお、9月14日現在で約400件の回答がありました。</p> <p>説明は以上です。</p>
委員長	ただ今の説明に対して、ご質問はありませんか。
E委員	資料1の1「まちづくりカフェについて」の④「7つの拠点ごとのまちのあり

事務局	<p>方について」で花小金井駅がありませんが、何もなかったのでしょうか。</p> <p>ここには象徴的なところを載せています。</p>
委員長	<p>他の資料には出ています。後ほど、7つの駅について審議していただく予定なので、その時に、また意見をいただきたいと思います。</p> <p>特にご意見がなければ、検討事項に入りたいと思います。</p>
委員長	<p>3 検討事項</p> <p>「小平市都市計画マスタープラン全体構想（前半イメージ）」について それでは、「小平市都市計画マスタープラン全体構想（前半イメージ）」について、資料4の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料4をご覧ください。この資料は、全体構想の内、部門別整備方針以前について、これまでの検討内容や市民意見を参考にして、いったん形にしたものですので、あくまでイメージとして考えていただきたいと思います。本日は、構成、内容の不足、わかりにくい点などについて、様々なご意見をいただければと思います。</p> <p>それでは、1ページをお開きください。まず「第1章小平市都市計画マスタープランとは」です。「1-1 位置づけ及び性格」につきましても、基本的には現行マスタープランを踏襲しています。「2-2 目標年次」につきましても、現行マスタープランを踏襲し、事業目標年次は、平成29年度から平成38年度までとしております。</p> <p>続いて「第2章 小平市を取り巻く状況と改定の視点」です。「2-1 社会を取り巻く状況」は、「① 少子化・超高齢社会、人口減少への対応」として、社会全体で少子高齢化、人口減少が進む中、本市の人口は現在、微増傾向にあります。しかし、今後は、減少局面が訪れることが推測されます。当市では、高齢化率は21%を超えて超高齢社会に突入し、今後も高齢化がさらに進行します。そのため、これらの変化に対応した、成熟した社会に向けたまちづくりが必要となります。</p> <p>「② 安全・安心なまちづくりへの意識の高まり」として、東日本大震災以降、防災に対する意識が一層高まっています。また、局所的な豪雨などの気候の変動への対応も迫られています。当市においても、市民アンケート調査で、「安全・安心なまち」への関心が高く、また「防犯」への対応についても、現状の満足度が低く、今後の重要度が高い、「重点改善分野」に位置づけられています。</p> <p>「③ 自然環境に配慮したまちづくりへの関心の高まり」として、地球温</p>

暖化をはじめとして、環境問題に配慮したまちづくりが求められています。当市でも、公共施設への太陽光発電システム設置等、再生可能エネルギーへの配慮が進められていますが、今後は、環境と共生した低炭素まちづくりへの対応が求められています。

「④ 基礎自治体への権限移譲による特性を活かしたまちづくり」国の地域主権改革により、まちづくりを取り巻く様々な分野の事務も、市へ権限移譲されました。都市計画については、用途地域や風致地区などの決定権限が市に移譲されたことで、地域の独自性をもってまちづくりをすることができるようになりました。そのため、小平市における地域主体のまちづくりを進める必要があります。

続いて「2-2 小平市の特性」です。

「① 住宅都市」として、市内の全域が主に住居系の用途地域で形成され、都心部のベッドタウンとなっています。

「② 都市構造の骨格形成」として、市内には、花小金井駅、小平駅、青梅街道駅、一橋学園駅、新小平駅、小川駅、鷹の台駅の7つの駅がある外、市外の萩山駅、八坂駅、東大和市駅、玉川上水駅、国分寺駅、武蔵小金井駅も市民の生活圏域に入っています。市外への利便性は高い一方で、「市内の交通の便がよくない」、「駅が多いため核がない」といった市民の声が多く聞かれます。本市の都市計画道路の整備は40%弱にとどまっており、都市計画道路ネットワークの検証を進め、必要な路線については優先的に整備を進めています。小川駅西口・小平駅北口周辺では、再開発事業の検討が進んでいます。

「③ 個性ある地域資源」として、青梅街道に直交するように短冊状に土地が割られ、街道沿いには屋敷が並び、その裏には畑が細長く続いており、玉川上水からの用水が通る地割が特徴的です。都心に近い住宅都市のなかにある農地を埋める形で、宅地化が進行しています。その一方で、市街地内の農地が残ることで、それらを活かしたゆとりや安らぎある住環境の創出につながっています。小平グリーンロードをはじめ、用水路や風致地区が、小平市の水・みどりの骨格的な軸となっています。市内の高低差が少ないため暮らしやすく、災害に強いという印象を与えている反面、地形的な変化が少ないため、地域特性を踏まえた地域のまとまりがづくりにくくなっています。

「④ 大学が多いまち」として、小平市には多くの大学が立地しているため、常に学生が多いまちになっています。

「2-3 小平市の暮らしのイメージ」につきましては、見直し検討委員会やまちづくりカフェで出されたご意見を参考に、今後膨らませていきます。

「2-4 まちづくりの基本的視点」についてです。

「① 小平市における暮らしの質の向上」として、既存の地域資源を活かした住環境の整備、小平市の特性を活かした秩序ある土地利用の推進。

「② 持続可能なまちづくり」として、道路や公共交通、施設の老朽化など、超高齢社会、人口減少といった人口構造の変化に対応したまちづくり、防災面に優れた小平市の特性を活かしたまちづくり、環境問題に配慮した、環境負荷の少ないまちづくり。

「③ これからの小平市の都市構造」として、市内の駅周辺の役割や位置づけ、小川駅西口、小平駅北口再開発及び花小金井駅を含めた都市構造の検証、都市計画道路の整備、見直しを受けたまちの骨格の活用、市民の生活行動を踏まえ、市域を超えた広域的な都市構造の検証。

「④ 上位・関連計画との整合」として、国や都の関連計画をはじめ、長期総合計画及び他課の上位・関連計画との整合。

「⑤ 参加と協働のまちづくり」として、自治基本条例や小平市市民等提案型まちづくり条例などの制定により、市民が主体的に関われるまちづくりの強化があります。

続きまして、5ページです。

「第3章 めざすべき将来の都市像」ですが、「3-1 まちづくりの理念」につきましても、現行マスタープランを踏襲することになっております。

「3-2 まちづくりの目標」につきましても、今後まちづくりカフェなどで考えていただくことを考えております。現在のところは、空白にしております。

「3-3 将来の都市構造」につきましても、「ゾーン分け」としまして、生活圏域は、各駅を中心とした生活圏域の形成、市街地ゾーン、ゆとり居住ゾーン、地域別構想とリンクするゾーン分けについて、今後検討する必要があります。生活圏域につきましても、下の各駅の表にあります「まちづくりの方向性」を参考にします。

続いて、連携軸は、概ね現行マスタープランを踏襲しておりますが、「あかしあ通りグリーンロード化基本計画」を反映しまして、あかしあ通りを加筆しております。

産業拠点につきましても、現在検討しておりませんが、大きな企業がございますので、今後検討する必要があると考えます。

8ページの都市構造図につきましても、ただいまご説明した内容を図に落とし込んだものです。黄色い枠で囲まれた部分が、「ゆとり居住ゾーン」となります。

続いて、「3-4 まちづくりの重点方針」です。今回の都市計画マスタープランでは、社会潮流や本市が抱える今日的な視点等を盛り込み、本市が目指す都市の将来像を実現していくことを強く意識しています。そのため、その取り巻く社会状況や、本市の特性からまちづくりの基本的視点を導き、「まちづくりの重点」を設定したいと考えております。

まず、将来イメージ図①として、「小平市の暮らしのイメージ」です。市

の特徴として、東京都心からのアクセス性に優れているにも関わらず、ほどよい自然や緑、農地が多く残っていることが挙げられます。また、高低差のない生活しやすい地形、大学や文化施設が充実した文教都市的な側面も有しています。

このような小平らしさを日々の暮らしのなかで享受できるような生活環境の実現を目指し、小平市における暮らしの質の向上を図ります。

次に、将来イメージ図②として、「まちの顔づくり」です。市では、駅を生活拠点とした、商業・業務機能の強化、文化機能の整備、公共交通機能の整備を進めてきました。今後も、その基本的な考え方は継続しながら、それぞれの生活の拠点として駅を等しく捉えるのではなく、その役割や特色に応じてバランスよく機能を補完しあい、より利便性の高い小平市の特性を活かしたまちづくりをめざします。

続いて、将来イメージ図③として、「”ひと”が中心のまちづくり」です。市は、比較的高低差が少ない平らな地形という特性があります。また、小平グリーンロードや用水路等による水と緑で形成された「軸」や、都市構造上、骨格となっている道路や今後計画されている道路で形成された「軸」が、まちの拠点とつながり、ネットワークを形成している。これらの特徴を活かし、「ひと」に優しく、「ひと」が中心となる都市空間を形成することで魅力アップを図っていきます。

下にあります図は、新たな都市構造の考え方を示した図となっております。

11ページには、考えられる主な具体的戦略として、考えられる事業を例として記載しております。

「① 駅前再開発事業」として、小川駅西口、小平駅北口の駅前広場や都市計画道路等の整備とともに、土地の高度利用やオープンスペースの確保を図る。整備済みの花小金井駅も含めて、3駅の役割や位置づけについて、今後検討する。

「② 公共交通ネットワークの充実」として、駅前再開発に伴い、交通結節点としての役割の充実を図る。駅ごと（拠点ごと）の公共交通の連携の必要性については、今後検討する。

「③ スマートコミュニティの構築」として、再開発等を契機に、地域の低炭素まちづくりを図る。「環境」や「防災」のまちとしての顔を持つことができる。

「④ 用途地域の見直し」として、拠点ごとの役割の充実や都市計画道路の沿道利用など、必要に応じて用途地域の見直しを図る。

「⑤ 施設マネジメントの推進」として、公共施設マネジメント計画に基づく再配置等により、まちのにぎわいの創出を検討する。公共施設の更新に伴う、役割の見直しや跡地利用を検討する。

	<p>「⑥ 道路、公園の整備・見直し」として、都市計画道路の整備による、近隣の道路の役割の見直しを検討する。都市計画公園の再検討と既存の公園の統廃合を検討する。</p> <p>「⑦ あかしあ通りグリーンロード化基本計画の具体化」として、本計画とともに、なかまちテラスを中心としたまちづくりも視野に入れた検討をする。</p> <p>「⑧ 災害・防犯（安全・安心）対策」として、防災公園、備蓄倉庫の整備を進める。無電柱化を推進する。地震対策や分流区域における浸水被害の対策、雨水浸透施設設置等による雨水流出抑制対策など、下水道プランに沿った対策を検証する。空家・空室対策を検討する。</p> <p>「⑨ 農地やみどりの保全」として、都市農地をめぐる、国・都及び社会的動向を注視し、保全・活用の方法を検討する。みどりの基本計画や用水路活用計画の推進を図る。</p> <p>「⑩ 基礎自治体への事務の権限移譲」として、風致地区の見直しを検討する。一団地の住宅施設などの更新への対応を検討する。その他のまちづくり、福祉、教育などに関する権限移譲により、小平市の独自性を活かしたまちづくりを進める。</p> <p>「⑪ 観光まちづくりの推進」として、観光まちづくり連絡会の設置と「訪れたい」まちへの魅力アップを図る。</p> <p>「⑫ 福祉のまちづくり」として、ユニバーサルデザインへの配慮、バリアフリー化の推進を図る。</p> <p>「⑬ 健康（健幸）まちづくりの推進」として、健康まちづくりの推進に向けて、健康増進計画の策定及び推進を図る。となっております。</p> <p>これらのことを踏まえまして、今後部門別整備方針をまとめていきます。</p> <p>以上でございます。</p>
委員長	<p>様子が見えてきたと思います。今年中に全体構想をある程度固めるために、資料は今まで出された意見を整理したものであり、本日はそれについてご意見をいただいて、これをどうしていくか、あるいはこれで良いかどうかを検討していただきたいと思います。</p>
委員長	<p>●第2章 小平市を取り巻く状況と改定の視点</p> <p>順に見ていきたいと思いますが、まず、第1章はどこでも書かれるような内容なので検討しなくても良いかと思います。第2章と第3章について検討していただくことが本日の内容になります。</p> <p>まず、第2章について検討したいと思います。第2章は今回の改定にあたっての認識が書かれていますが、これで良いのかどうかを事務局としては懸念されているようです。</p>

	<p>特に2-3「小平市の暮らしのイメージ」は、ここに書きたいという意向があるようですが、どのように書くか、小平で10年後、20年後にどのように暮らすことを目指すのか、市民がどう思っているのかということをお互に共有して、それに向かって事業を進めていくということだと思います。それも含めて、2章についてはいかがでしょうか。</p>
H委員	<p>◆ 構成における「課題」の考え方について</p> <p>2章と3章の構成が合っていないように思います。それでいろいろと調べる中で、横浜市の概要版の項目と照らし合わせてみました。横浜市の計画は、2章でまず「現状」として客観的な現状だけを書いて、その後に「課題」を書き、「理念」「目指すべきもの」と続いて、最終的に「実現に向けてこうしていきたい」という流れになっています。そこで、それに当てはめるように並び替えたらしくりました。</p> <p>それで、もう一度、資料4を読んでも「現状」の中に課題が入っていたり、「特性」の中に将来へのイメージが入っていたりするので、順番が混乱してスムーズに入ってこないのではないかと思います。実現するためには、大枠は市などによるものの、後は市民の力で回らなければならないと思うので、分かりやすくなる部分があった方が良くと思います。そういう意味では、2章と3章の見出し等が解決すると内容は自ずと整理されるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>2章のところは初めて数字を見るものもあって、課題がはっきりと見えているような、見えていないような形なので、整理をすると分かるかもしれません。今は何となく課題があると思っるところがあって、「核がない」等、いろいろな意見が出ていても、何となく耳にしているという感じで、何が課題なのかを掴み切れしていないところがあるのかもしれないと思います。ご指摘のように、課題とそれをどうするかという書き方の問題もあると思います。</p>
F委員	<p>基本は課題があってどういう形で組み立てていくかだが、課題という項を立てるかどうかも考えなければなりません。</p>
委員長	<p>課題を置いてそれを解決するためにどう考えるのか、また、課題は課題として解決していくけれども、それも含めた10年後を考えて方向性を打ち出していくことを重視するのかだと思います。</p> <p>これは意見を出すことであり、どちらにするかという話ではないので、提案や希望があれば出していただきたいと思います。</p> <p>また、「特性」のところには課題が入っているという意見もありました。</p>

E委員	<p>今までの流れは別として、「10年後にどうしたいか」ということを決めるのであれば、課題や改定の視点が先に出てくるのは違和感があります。「このようにしたい」というものがあるが「現状がこうだから、どこが課題なのか」というものが後から出てきて、それに対して「どのようにするのか」という流れになると思います。課題を踏まえて考えるよりも、「どうしたいのか」ということが先にあった方が良いのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>どちらが正解かという話ではなく、ここで検討したら良いと思います。</p>
F委員	<p>2-2の「特性」のところに「① 住宅都市」とあり、厚い資料の方で昼間人口を見ますと、昼よりも夜間の方の人口が多くて、昼間は2万人ほど外に出ていることが分かります。さらによく見ると15歳未満と15～19歳の昼間人口が高く、流入しているので、学生が多いまちだと分かります。これは「④ 大学が多いまち」の裏付けとなっています。</p> <p>ただ、若い人が転出しているというデータもあり、住宅都市だけれども、人口から見るとそういう面もあることを書いた方が良さそうな気がします。</p>
D委員	<p>ものづくりの立場からすると、現状を把握することは非常に大切だと思います。現状把握が入ると、問題点と課題は表裏一体だと思うので、資料に挙げられた内容を整理し直すだけでもかなり良くなるのではないかと思います。会社であれば経営者側や開発者、あるいは市民等、いろいろな関係者を合わせて現状把握をしていくと良いのではないかと感じます。私もこれを見て一般市民に理解されるのかという心配があります。機会があれば、作り直しても良いかもしれません。</p>
委員長	<p>ここに「課題」と書く必要があるかどうかは別として、課題の確認はしておきたいという思いはあります。これを見ると、私自身も人口やいろいろな点を理解できていないところがあるので、そう思ったのかもれません。ここでも何が課題なのか、分からないところがあります。それは納得というレベルかもしれませんが、皆が「そうだ」と思っていないところがまだあるので、そういうところを確認することも必要ではないかと思っています。</p>
F委員	<p>人口ビジョンのP3～4に興味深い内容として「他自治体への人口流出傾向の拡大」と書かれています。このような傾向が、マスタープランで示す10年後にどうなっているのか、課題になるのか、問題意識になるのか分かりませんが、本当にこのような傾向があるのでしょうか。</p>
委員長	<p>大学があるので大学生が流入し、やがて卒業して出ていくことが理由なの</p>

	<p>かもしれませんが、それは良い面もあって、常に一定の若い層がいることでもあります。ただ、それが出て行ってしまうことが課題だということです。</p> <p>そのような関係のありそうなところについても、私たちが納得していないところがあるので、それを課題として取り上げるかどうかについては、むしろこのように書いた中で整理して示すこともできると思います。つまり、基本データをどのように読むかということです。今を知って、先を考えるということですが、それをしていないように思われます。</p>
E委員	<p>何を指すかによって課題が変わるので、基本データを知っておかなければ、10年後はつくれなないと思います。課題が問題ではないと思います。</p>
委員長	<p>確かに、その点あまり語られていないとようです。</p> <p>そういうことがあるということですので、後でまたお気づきのことがあればご発言いただきたいと思います。</p>
副委員長	<p>確認ですが、これはコンパクトにまとめた概要版に相当するものだと思います。それならこのくらいで良いのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>ボリューム的には概要版くらいだと思います。</p>
副委員長	<p>日本の自治体全体、社会状況全体について述べていると同時に、少し説明があって、やや中途半端な気はしますが、大事なことだと思うので、本音で言うと日本全体のことでも構わないと思います。結局、少子高齢社会、超高齢社会にならざるを得ないというのがメガトレンドで、その中でどのようなまちづくりができるのか、そこに向かって何を材料にするのかを考えて、地方公共団体に与えられている条件をきちんと活かすために、コンパクトに、もっとスリムにきちんと分けて、私たちの問題意識を示すところから小平市の現状はどうなっているのかということにつなげていくべきだと思います。</p> <p>そのつながりが弱いと感じるので、「このような認識を私たちは重く見えています」というところから「小平市の特性」を整理して、その後今後重点的に何をしていくのかというように、もう少しメリハリのある、つながりのはっきり分かるような形にしてはどうかと思います。</p>
B委員	<p>後ろの方にコンパクトシティの資料がありますが、コンパクトシティについては今年の3月に国に委員会ができて本格的な検討をしています。それにより、今までコンパクトシティとは何かということが明確に分からない状況で、我々も曖昧なままでしたが、その点がはっきりしてきました。</p> <p>そこで大事なことは、都市に人口が集中しつつある一方で、DIDという一定</p>

	<p>の密度以上に住んでいる地域の中がコンパクトでなくなりつつあることが問題になっているということです。また、東京圏は85歳以上の人口が2040年には現在の240%になるとされていますが、これは名古屋圏、関西圏よりも圧倒的に多くなっています。あるいは、東京圏の介護保険施設の施設定員数がこれから2倍以上になるという、東京ならではの特徴が政府の委員会の資料として公開されており、閲覧することができます。</p> <p>そのような密度の高い研究が進みつつあるので、最先端の情報を入れて、全国ではなく、小平市あるいは東京の中を説明するような書き方に改めると良いと思います。</p> <p>また、コンパクトシティについては、これまで一極集中という考え方で、1ヶ所に集めれば良いというように誤解されていたと思いますが、そうではなく、まさに小平市が目指すような方向で、中心的な拠点だけではなく、多極の取組でコンパクト化を目指す、コンパクト&ネットワークが新しいコンパクトシティの概念です。人口についても、それぞれのところで強制的に集約するのではなく、誘導による集約を目指し、誘導するための施策として、例えば、福祉医療施設の建替え時に容積率を緩和する等、具体的な支援策も検討されています。その辺りも第3章以下では参考になるのではないかと思います。</p> <p>やはり、拠点は必要だと思いますが、それは小平市のこの周辺だと思っています。市役所の行政機能、安全・安心に向けた警察、消防等が集まっていますので、拠点として宣言してはどうかと思います。</p> <p>このようにコンパクトシティの資料は役に立つので、ぜひ参考にされて第2章以下を見直されてはどうかと思います。</p> <p>委員長 恐らくP10の「これから」はそういうイメージがあると思いますが、表現の仕方についてはこれから議論していきたいと思います。</p>
委員長	<p>●第3章 めざすべき将来の都市像</p> <p>◆ 拠点づくりについて</p> <p>続いて、第3章を見ていただきたいと思います。P5はこれから検討するということがあまり書かれていませんが、7つの駅になるのか、8つの拠点になるのか、B委員が言われたように大きな中心を1つ置く形もあると思います。それから、それぞれの性格を利用してメリハリをつけるという話が書かれていますので、ご意見をいただきたいと思います。</p>
B委員	<p>P6の8つの駅で、青梅街道駅周辺については防災拠点としての役割を整備することにより、安全・安心の精神的な拠り所となるような中心拠点づくりが必要だと思います。市の中心にそのような拠点があることの必要性を、今回</p>

E委員	<p>の都市マス見直し委員会の中で一番感じました。</p> <p>今までは10年後を見据えて考えてきましたが、平成19年にマスタープランを策定した時も地域別構想で似たようなことが書かれていて、それをどう使うかは別だと分かっていますが、それを踏まえても実現していないことは残しても仕方がないと思います。</p> <p>ただ、資料を見ると今までと同じようなタイトルになっているので、イメージとして継承されたとしても、あまり解消されていないような課題は視点が違うのではないかと思います。何となくこの流れでは、同じようなプランに出来上がっていくのではないかという印象があります。そのような点は考慮せずに進めても良いのでしょうか。前回も同じように書いてあることに対して、それがどれだけ進んだから、さらに進めるために残すというのは分かるのですが、それを考えずにそこから先だけを検討して文章として残せばよいということであれば疑問に思います。</p>
委員長	<p>実際に10年間取り組んできて実現できなかったものがありますが、全く違うものをつくるわけにもいきませんし、過去を踏まえると「小平らしい、個性あるものができなかった」という話があったので、全部、見直すということではなくて、継承するのは継承して良いと思います。</p> <p>ただ、そのままの課題を認めて課題として出して良いのかどうか、違う方が良い場合もありますので、それをここで議論する必要があると思います。</p>
E委員	<p>10年後をどうするかということが決まると、自動的に現状との差で課題が見えてくるので、それについてどう計画に盛り込むかという組み立てをしていくと聞いていましたが、検証を踏まえて課題をどうするかという話になるのでしょうか。</p>
事務局	<p>E委員が言われたのは都市計画マスタープランの地域別構想の部分で、地域ごとの課題だと思いますが、地域ごとの課題についてはまだ議論していただいていませんし、こちらで資料を出していないので、その上でこれを議論していただくのは確かに難しい検討になってしまっていると思います。</p>
E委員	<p>駅周辺も緑、福祉、環境創出を地域のテーマとして扱って、どういうことをここですのかと。</p>
事務局	<p>P6は今まで議論していただいたことを書き込んでいるので、もし似ていると思われたのであれば、自然とそうってしまったということです。こちらの課題については、別の形で地域別構想に向けてもう一度整理したいと思い</p>

委員長	<p>ます。</p> <p>本日は、ゾーン分けや考え方等についても検討するようになっていきます。</p> <p>地域別構想では7つの駅を生活圏として、それぞれの役割や方向性を考えてきたが、今回はこの8つの駅周辺をどうするかということについて、提案があればご発言いただきたいと思います。</p> <p>私はあまり小平を歩いたことがないのですが、平らなので自転車や歩いたり走ったりできる空間はこれから大事になると思います。そういうものを書いていく可能性はないのでしょうか。</p>
事務局	<p>アンケートを見ますと、歩行空間等の重要性が挙げられていますが、まだ達成できていないところがあります。道を広げるのはかなり大変なので、都市計画道路を整備する時に余裕を持った道路を設置する方が可能性は大きいと思います。</p> <p>もう一つは、休憩所をスポット的に設けることです。最近健康「幸」都市という形で、歩きやすいまちをつくって、緑の環境も楽しみながら歩いて回ることによって健康になるという考え方があります。それから、最近公共施設もそうですが、子どものある方も高齢者の方も不安なく楽に外出できるような取組が考えられると思います。</p>
B委員	<p>歩いて暮らせるまちづくりは補助対象になっており、歩行空間の整備支援として国の資金で整備ができます。市町村が手を挙げるのを待っていますので、小平市も手を挙げていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>青梅街道駅周辺には防災機能を備えるという意見があり、今回の常総市のように水没してしまうと困りますが、市民としては安全な避難場所や防災の拠点を確保していくというのは安心の材料になると思います。</p>
B委員	<p>防災マップを見ますと、小平市はいろいろなところに平均的に避難場所があるので、すぐに避難できて良いと思いますが、やはり全体の拠点となるものが重要だと思います。そういう意味では、この辺りは消防も警察も市役所もありますので、防災対策をするのに適していますし、地域の防災性をさらに高めるために、エネルギーのネットワーク化も検討できる地域だと思います。</p>
事務局	<p>市役所そのものが30年を経過したくらいなのであと20年間くらいは大丈夫ですし、福祉会館は老朽化が進んでいますが、この辺りは市の土地として確保できているゾーンで、線路を渡れば図書館もあり、そういう意味では一ま</p>

	<p>とまりになっていますので、建替えに当たってどのように活用していくかという大きな視点を都市計画マスタープランの中で計画することも可能ではないかと考えています。駅前市街地再開発については、それぞれにサブ拠点が必要だということも併せて考える必要があるかと思えます。</p>
委員長	<p>◆ 「みどり」について</p> <p>「みどり」については、P6に「ゆとり居住ゾーン」が地図の緑の部分で示されていますが、「ゆとり居住ゾーン」として農地を守ろうと書かれるのはどうなのでしょう。緑として残ってほしいし、なおかつ農地として上手く住宅と共存できる場所をモデル的につくって、用途地域をそれなりにするということが考えられるのでしょうか。</p>
E委員	<p>イメージとしては、グリーンロードや公園が整備された上で、さらに農地もあるという方が良いのではないのでしょうか。先日もグリーンロードについて、マラソン大会を開催してはどうか等の意見が出ましたが、あそこが歩きやすくなると、そういうことにもつながっていくのではないかと思います。</p>
委員長	<p>グリーンロードだけでは、それだけになってしまうので、住宅と農地が上手い関係で残って、土のあるイメージになるものとして「ゆとり居住ゾーン」が位置付けられているような気がします。グリーンロードは「水と緑の連携軸」とされていますが、歩きにくいという意見が出ていますので、整備は予定されているのでしょうか。</p>
事務局	<p>いろいろ手は入れています。歩行者と自転車について、本来自転車は下りて利用していただくことが基本となるのですが、地面が凸凹していることもあって歩きにくい面もあり、どこまで整備できるかは課題だと思っています。</p>
E委員	<p>先日、玉川上水を世界遺産登録しようという話がありましたが、そのくらいのものでなければできないくらい、あそこの整備は大変だと思います。しかし、市民のアンケート等や課題の中では毎回出てくる問題なので、どこかで決まりをつけなければならないテーマではないかという気がします。</p>
委員長	<p>ただ、東京都の土地であり、勝手にできない部分もあるので、どのように緑を残すかということを中心に位置づけるだけではない、他の方法が必要かもしれません。他の市では、緑の基金のようなことで市民に募集をしたら希望者が多かったということです。そのくらい市民は緑を必要と思ひ、協力を得られたので、グリーンロードが良いかどうかは別として、税金だけでな</p>

副委員長	<p>く、市民の力を得ていくことも考える必要があると思います。</p> <p>◆ 「まちづくりの重点方針」について</p> <p>P9の3 - 4に「まちづくりの重点方針」があり、P10に将来イメージ像がありますが、P9は「まちづくりの基本的視点」として5項目が挙げられており、その中の「参加と協働」については全体に関わるものなので、後の章の「実現化方策」につながるとしています。したがって、ここでは触れないということだと思いますが、大きな矢印から「まちづくりの重点」として3点に整理されているものと、P10の3つの将来イメージ像にずれがあり、3番目の「“ひと”が中心のまちづくり」には「参加と協働」が入っても良いのではないかと思います。特に、基本的視点を活かした上で重点が出てくるというつながりが分かると、そのような気がします。</p> <p>「“ひと”に優しく、“ひと”が中心となる都市空間」というのは、ひとが暮らしていくことを大事にしていくというイメージであり、住んでいる人が愛着を持ってまちづくりに関わり続けることが3 - 1の「まちづくりの理念」にも書かれていますので、そういう目標がこれからの都市づくりには重要だということで、「参加と協働」については後の章に出てくることになっていますが、ここで一言触れた方が良いのではないかと思います。</p> <p>2章で特性として「大学が多いまち」と出ていて、最後の基本的視点で「参加と協働」が出ていますので、確かに特性としては「大学の多いまち」だと思いますが、それよりも現状として、市民が関わってどうなるのかというところをもっとポジティブに出して、P3に書き足した方が良いと思います。</p> <p>それがあったので、P9～10の辺りの「将来イメージ像③」に若干の加筆があっても良いのではないかと思います。「“ひと”に優しく、“ひと”が中心となる都市空間を形成すること」のところに、住民が愛着を持って関わり続けられるような内容を入れて膨らませられないかと思います。</p>
委員長	<p>言葉遣いを考えると「重点方針」「重点」「将来イメージ像」と書かれているのが気になりますが、まだ整理されていないのだろうと思っています。</p> <p>今のご意見のように、将来イメージ像のところはもう少し議論が必要になると思いますし、P9の矢印の記はこの計画書の後に「実現に向けて」というページが設けられて、そこで記載されると思いますが、「“ひと”が中心のまちづくり」の中にもイメージされるかもしれません。「イメージ像」と書かれていますので、いろいろな意見をいただくと、これがバージョンアップされると思います。</p>
副委員長	<p>とても重要なことなのに、非常に受け身的な問題として位置づけられていると思います。</p>

委員長	<p>P1にあるように、平成22年に「小平市民等提案型まちづくり条例」が施行され、これを受けて今回の計画があるということですので、できればそういうことをイメージしながら書いていくことは必要かもしれません。</p>
事務局	<p>2点のご意見があったと思いますが、まず、「参加と協働」の書き方については、委員長が言われたとおり、これを受けるのは最後の「実現化の方策」だと考えています。ただ、いろいろな方が見てどのように受け取るかというところもありますので、こういうところでもしっかりと謳った方が良いというご意見があれば、それも必要かもしれないと思います。</p> <p>もう1点は「まちづくりの重点方針」等の書き方に迷いがあるのではないかとありますが、まさにそのとおりで、まだ定まっていないところがあります。ただ、今後10年、20年に向けて何に重点的に取り組んでいくか、何が重要なのかということについて、現行の都市計画マスタープランにはそのような項目がないので、今回はそういうものを位置づけることによって現行のマスタープランとの違いを出したいという思いがあります。したがって、ここに書くことがどのような思いのものになるかということも含めて、皆さんのご意見をいただきたいと思っています。</p>
B委員	<p>将来イメージが、①②③と続いて記述されていると、読んでも何のことか分かりません。大事なのは次のページの「考えられる主な具体的戦略」なので、その中の①～⑭がイメージ①②③のどれに該当するかということを整理して、それぞれのイメージと照らし合わせて、矛盾なく、最適なイメージが反映されるまで直していくことが必要だと思います。イメージ像が先に出るとよく分かりませんし、後ろの方に出ている具体的戦略が大事なので、具体的に何をするのか、何のためにするのかということを一覧で分かるような書き方をしてはどうかと思います。</p>
委員長	<p>思いを書いているので、まだ整理するところまで至っていないようです。</p>
事務局	<p>総花的になっているところもあり、ご指摘のとおりかと思います。</p>
委員長	<p>ここで意見をいただいて、反省されているということで、次を楽しみにしたいと思います。</p>
A委員	<p>◆ 産業拠点について</p> <p>P7の「産業拠点」に準工がありますが、これは「何でもあり」の準工でしょうか。地区計画がかかっていない準工であれば、それは「準工らしい」準</p>

	<p>工」にしていかなければならないと思います。</p> <p>そのためには、例えば企業が撤退した跡に企業を誘致する等の策が必要になると思います。優遇対策や税の減免等の特典を付けて、準工らしい準工にしなければ、準工を抜けてマンションが建ってしまい、準工の意味がなくなってしまいます。</p> <p>そういう意味では、昔の準工は都市計画のあり方として間違っていたと思います。今、準工の場合は必ず地区計画をセットにして決められますが、昔の準工は「何でもあり」でしたので、今、そこにマンションが建っています。例えば、日立が撤退した跡も半分はマンションになってしまいました。それがまちづくりとして本当に良いのかどうかということです。</p> <p>したがって、小平が前進するためには準工を守ることが必要であり、企業が撤退したら、代わりに良い企業を誘致して、税収の補填を考えていくことも謳っていくべきではないかと思います。</p>
委員長	<p>準工を維持するのかどうか、そうでないなら用途を変えていくのか。そのようなことも含めて、検討をする必要があるかもしれません。</p>
A委員	<p>今の時代に沿った形で準工を見直していかなければ、まちづくりにならないと思います。</p>
委員長	<p>予定の時間が参りましたが、その他はいかがでしょうか。</p>
A委員	<p>◆ 文言について</p> <p>文言で気になる点があります。P3の「小平市の特性」の②に「都市計画道路ネットワークの検証を進め、必要な路線については優先的に整備」と書かれていますが、都市計画道路は必要だから都市計画決定をしているので、「必要な」という言葉には抵抗があります。「重要な」とか「最重要路線から」という表現であれば分かりますので、少し工夫していただきたいと思います。</p>
委員長	<p>そういうレベルで見えていくといろいろと出てきそうなので、本日のところは気が付いたところだけ、後で事務局にご意見を頂ければと思います。</p> <p>その他はいかがでしょうか。（意見等、なし）</p>
	<p>4 今後の日程について</p>
委員長	<p>それでは、今後の日程について説明をお願いします。</p>

事務局	<p>今後の日程についてご説明します。</p> <p>平成27年9月頃から、市内小中学生からの意見収集をするため、現在学校と調整しております。</p> <p>続いて、10月2日（金）に、小平市都市計画マスタープラン全体構想特別委員会がごさいます。</p> <p>そして、次回の小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会は、ひとまず11月5日か6日を予定したいと思っておりますので、皆様には取り敢えず予定を開けておいていただければと思っております。確認しました後、確定しましたらメールでお知らせいたします。よろしくお願ひいたします。</p>
委員長	<p>全体構想は最終が第6回頃になるのでしょうか。</p>
事務局	<p>今回は部門別整備方針を含めて、全体構想全体をお示ししたいと思っております。それを検討していただき、それをさらに次に見ていただくことになると思っておりますので、第6回である程度の形にして、それからパブリックコメントを行う予定です。</p>
委員長	<p>第5回、第6回でパブリックコメントを行える形のものをつくるということですね。</p>
事務局	<p>全体のスケジュールとしては、少なくとも年度末くらいにはパブリックコメントを出したいと思っておりますが、パブリックコメントの前にある程度まとまったものを市民に広く見てもらう機会を設けたいと考えています。したがって、12月末頃にはほぼパブリックコメント前の素案の形に仕上げたいと思っており、それが第6回の検討委員会になると思っております。ただ、その後もパブリックコメントまでにはまだ時間がありますので、修正は可能です。そのようなスケジュールで考えています。</p>
A委員	<p>今回はアンケートの集計を出していただけるのでしょうか。</p>
事務局	<p>提示したいと思ひます。</p>
委員長	<p>そのような予定になっていますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、第4回の検討委員会を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>